

#### IV 関係機関等との連携協力体制の構築に係る取組の報告

##### 1 運営指導委員会

###### ●運営指導委員

所属	氏名	主な実績
佐賀大学教育学部 学部長	小野 文慈	佐賀県のICT活用教育改善検討委員会委員や高校生によるプレゼンテーション大会審査員を務めている。
有田町教育委員会 教育長	吉永 淳一	元佐賀県教育委員会事務局教育DX推進グループ指導主幹であり、これまでの取組を熟知している。さらに、行政とのつながりも期待できる。
佐賀県立佐賀農業高等学校 校長	三原 聖子	前伊万里実業高等学校長であり、これまでの取組を熟知している。開発プログラムの横展開を進める上でのアドバイスを期待できる。
佐賀県教育センター 所長	山崎 哲也	元佐賀県立有田工業高等学校長であり、高校生の様々な取組に精通しており、地域連携等への実績例を提供できる。
佐賀県教育委員会事務局 教育振興課 指導主事	牟田口 恭子	佐賀県立高等学校の「唯一無二の学校づくり」担当であり、県内高等学校の特色を生かした取組や地域との協働による取組などを推進している。

##### 第1回運営指導委員会

日時 令和6年7月10日(水) 10:00～11:30

場所 佐賀県立伊万里実業高等学校 商業キャンパス 会議室

参加者 運営指導委員 5名  
管理機関 2名  
学校職員 5名  
コーディネーター 1名

内容 学校長挨拶  
自己紹介  
学校概要説明  
協議 「実施計画書」の説明  
今年度取組事業の説明  
指導及び助言等

## 2 コンソーシアム会議

### ●コンソーシアムメンバー

所属	氏名	主な実績
伊万里市総合政策部 副部長	松園 家智	地元産業・大学・外部講師との連携等、本校の活動を支援
久留米工業大学 AI 応用研究所教授	小田 まり子	MDASH プラス認定校として、メタバース、遠隔会議等の高大連携を支援
伊万里・有田焼伝統産業会館 館長	寶藏寺 彰	窯業の歴史・文化の指導や窯元等の事業者と本校が協働する活動を支援
有限会社 伊万里グリーンファーム 代表取締役会長	前田 清浩	本校評議員（令和5年度）として、本校の活動を支援

### 第1回コンソーシアム会議

日 時	令和6年12月11日（水） 16:00～16:50
場 所	佐賀県立伊万里実業高等学校 農林キャンパス 校長室
参加者	コンソーシアムメンバー 2名 学校職員 8名 コーディネーター 1名
内 容	副校長挨拶 自己紹介 学校概要説明 協議 「実施計画書」の説明 今年度のコンソーシアムの予定 コーディネーターからの提言 質疑応答

### 第2回運営指導委員会および第2回コンソーシアム会議

日 時	令和7年2月6日（木） 11:15～12:15
場 所	佐賀県立伊万里実業高等学校 農林キャンパス 視聴覚教室
参加者	運営指導委員 5名 コンソーシアムメンバー 4名 管理機関 2名 学校職員 10名 コーディネーター 1名
内 容	学校長挨拶 自己紹介 協議 今年度の事業報告及び次年度の計画 指導及び助言等

### 3 学科横断・連携チーム連絡会

#### ○ 第1回連絡会

期 日 令和6年5月10日（金）  
参加者 佐賀県立有田工業高等学校職員、主幹教諭、コーディネーター  
内 容 令和6年度の提携校との交流事業について

#### ○ 第2回連絡会

期 日 令和6年5月11日（土）  
参加者 校長、事務長、主幹教諭、コーディネーター  
内 容 伊万里市役所との連携について

#### ○ 第3回連絡会

期 日 令和6年5月22日（水）  
参加者 教育DX、学校長、主幹教諭、コーディネーター  
内 容 令和6年度における本事業の内容確認

#### ○ 第4回連絡会

期 日 令和6年7月11日（木）  
参加者 主幹教諭、農場長、商業科主任  
内 容 令和6年度の企業訪問について  
令和6年度のキャンパス間交流学习について  
令和6年度の提携校との交流事業について

#### ○ 第5回連絡会

期 日 令和6年8月6日（火）  
参加者 主幹教諭、農場長、商業科主任  
内 容 令和6年度の「総合的な探究の時間」の講師について  
令和6年度の企業訪問について  
令和6年度のキャンパス間交流学习について  
令和6年度の課題研究発表会について

#### ○ 第6回連絡会

期 日 令和6年9月5日（木）  
参加者 主幹教諭、農場長、商業科主任  
内 容 令和6年度の企業訪問先の確定および移動手段について  
令和6年度のキャンパス間交流学习について  
令和6年度の課題研究について  
令和6年度の研究開発実践報告書について

○ 第7回連絡会

期 日 令和6年10月1日（火）  
参加者 主幹教諭、農場長、商業科主任  
内 容 令和6年度の企業訪問時の生徒の班分けと講義内容について  
令和6年度の久留米工業大学訪問について  
令和6年度のキャンパス間交流学习について  
令和6年度の課題研究について  
令和6年度の研究開発実践報告書について

○ 第8回連絡会

期 日 令和6年10月23日（水）  
参加者 主幹教諭、農場長、商業科主任、コーディネーター  
内 容 令和7年度の課題研究（中間発表）について  
令和7年度の課題研究について

○ 第9回連絡会

期 日 令和6年12月12日（木）  
参加者 主幹教諭、農場長、商業科主任  
内 容 令和6年度の提携校との連携について

4 先進校視察報告

(1) 福岡県立糸島高等学校

期 日 令和6年10月23日（水）、24日（木）  
参加者 主幹教諭、農場長、商業科主任、コーディネーター  
内 容 令和6年度の連携についての協議

(2) 熊本県立人吉高等学校

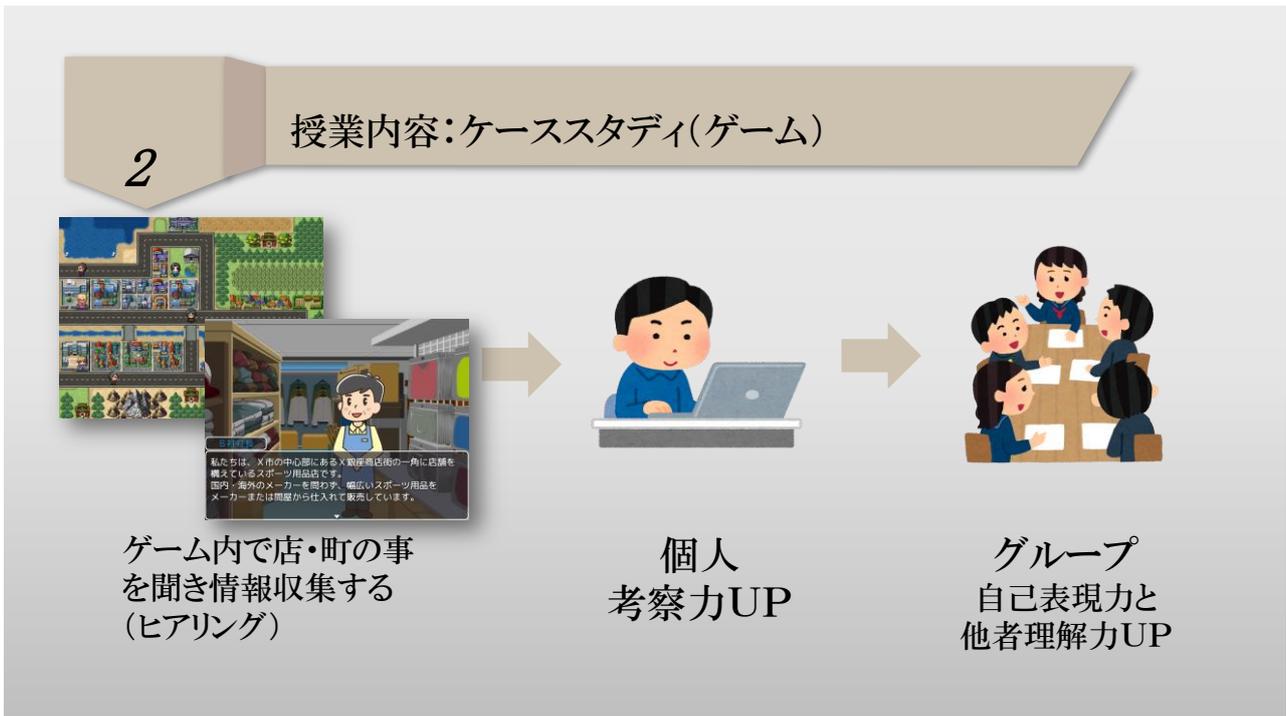
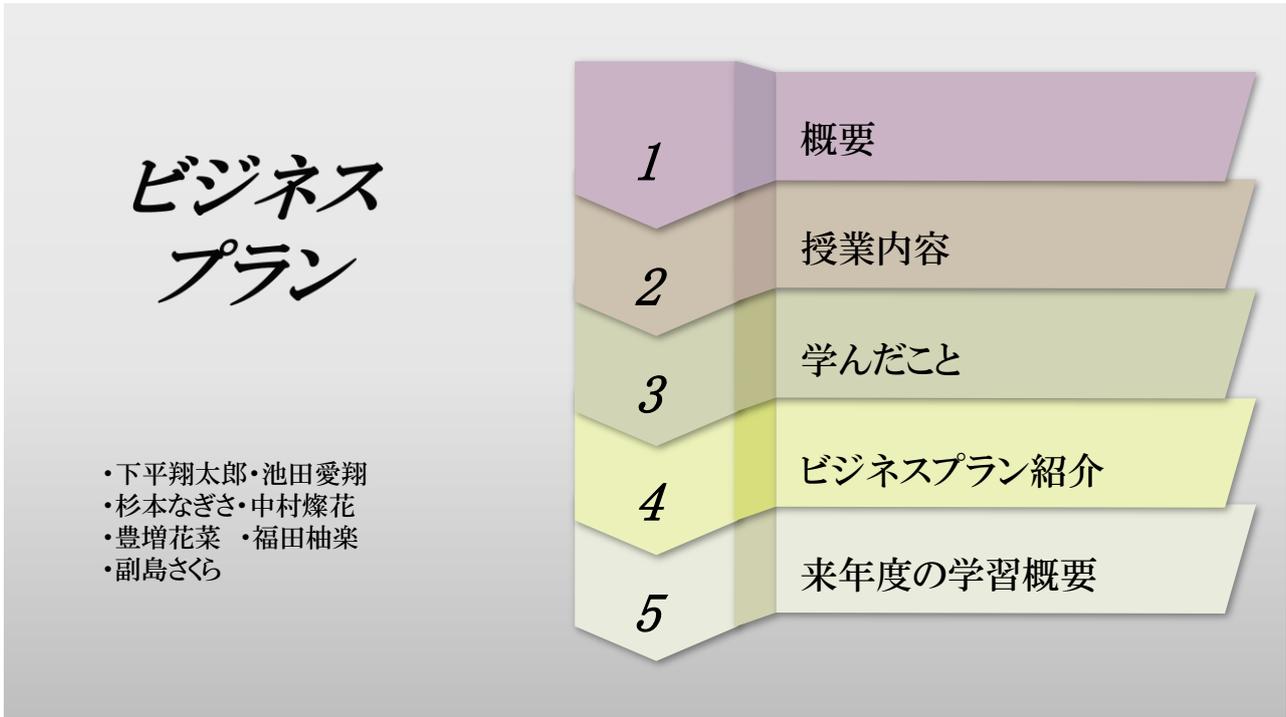
期 日 令和7年1月23日（木）～24日（金）  
参加者 主幹教諭、農場長、情報処理科主任、1年担当、2年担任  
内 容 令和6年度の指定事業における課題と解決策についての協議

(3) 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

期 日 令和7年2月13日（木）～14日（金）  
参加者 主幹教諭、商業科主任、2学年主任、1年担当、2年担任  
内 容 令和7年度の中間発表についての協議

## V 補足資料

### 1 ビジネスプラン（一部抜粋）



# SWOT分析

## Strength (強み)

自社が持つ特徴の中で、目標達成に  
貢献するもののこと

### 該当する項目

経営資源(ヒト・モノ・カネ)  
商品・サービス  
知名度・評判 等



3

### 学んだこと

- 1 自分の意見を持つ
- 2 お客様にとっての価値
- 3 ビジネスプランの大変さ

- お客様のニーズに合っているか
- 商品を誰に売るのがか
- どのように利益を得るか
- 競合他社との差別化



#### 4

#### ビジネスプラン紹介

- I M A R I を巡ろうスタンプラリー（豊増花菜）
- みんなに愛される有田町（福田柚楽）
- 小学校廃校プロジェクト（中村燦花・杉本なぎさ）
- 1人1本愛着ある傘を持とう！（下平翔太郎）
- 部活動向けメンタルヘルスケア（池田愛翔）
- 農地マッチサポート（副島さくら）

## 4

## ビジネスプラン紹介

## ・ I M A R I を巡ろうスタンプラリー（豊増花菜）

なぜそのビジネスプランを考えたか	解決方法	学んだこと	難しかった点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊万里にはたくさんの飲食店があり、その飲食店を知ってもらいたかったから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンプラリー形式にすることで、景品をもらえる楽しみながら飲食店をまわってもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様が求めるニーズを提供しないといけないこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景品のお金はどこからの出すか</li> <li>・競合他社との差別化</li> </ul>

## 4

## ビジネスプラン紹介

## ・ みんなに愛される有田町（福田柚楽）

なぜそのビジネスプランを考えたか	解決方法	学んだこと	難しかった点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス感染拡大の影響で、観光客が減少傾向なのでもっと増えればと思ったから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実勢に買うのではなくまずは手軽に手にとってもらいやすいようなサブスクリプション型のサービスを考えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プランを1から考える大変さ</li> <li>・有田町や有田焼の知らないところを知れた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼物の実際価格とサブスク価格の差額をサービスでどのように利益を出すのか</li> <li>・お客様が飽きない、プランを作ること</li> </ul>

4

## ビジネスプラン紹介

### ・小学校廃校プロジェクト（中村燦花・杉本なぎさ）

なぜそのビジネスプランを考えたか	解決方法	学んだこと	難しかった点
・ 地元の学校が廃校になってしまうので、残したいと思ったから	・ 宿泊施設などにして地域の人や観光客の人を集める	・ どうやったらこの施設に行きたいと思ってもらえるか	・ ターゲットが絞りにくかった

4

## ビジネスプラン紹介

### ・ 1人1本愛着ある傘を持とう！（下平翔太郎）

なぜそのビジネスプランを考えたか	解決方法	学んだこと	難しかった点
・ 日本の傘の年間消費量が、一億本以上と多く、使い捨てというのをなくしたかったから	・ 1人1本自分の傘を持つようにし、修理キットや組立キットの販売を考えた	・ 自分の考えをしっかりと伝える大切さ	・ 競合他社との違いをつけるアイデアを考えること

4

## ビジネスプラン紹介

### ・部活動向けメンタルヘルスケア（池田愛翔）

なぜそのビジネスプランを考えたか	解決方法	学んだこと	難しかった点
・部活動をする人が減っていて少しでもその手助けをしたかったから	・部活をしている人にメンタルヘルスケアのサービスを提供	・将来を見据えた収支計画をたてたことによる計画性を身につけることができた	・どの世帯にニーズを向ければ収益を得ることができるか

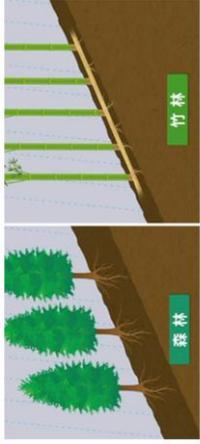
4

## ビジネスプラン紹介

### ・農地マッチサポート（副島さくら）

1/25 Start Up 99  
第6回西九州させぼ広域都市圏ビジネスプランコンテスト

**次世代起業家賞**

<p><b>1. 研究の動機</b> 竹林面積</p> <p><b>日本の竹林面積</b></p> <table border="1"> <tr> <td>昭和61年 14.7万ha</td> <td>平成29年 16.7万ha</td> </tr> </table> <p>その多くが放置竹林</p> <p>1</p>	昭和61年 14.7万ha	平成29年 16.7万ha	<p><b>放置竹林</b></p>  <p><b>放置竹林 問題その1</b></p> <p><b>土砂災害の危険性</b></p>  <p>2</p>
昭和61年 14.7万ha	平成29年 16.7万ha		
<p><b>放置竹林 問題その2</b></p> <p>イノシシなどの住処→獣害の拡大</p>  <p><b>問題その3</b></p> <p>森林面積の減少、生物多様性の低下</p>  <p>3</p>	<p><b>伊万里市の放置竹林問題の解決</b></p>  <p>4</p>		

# 1. 竹林整備・竹チップ

森林環境科



## 16メンバーで竹切り



# チップパー(木材粉碎機)



114本 →  
227.5kg

# 2. 竹炭



# 無煙炭火機



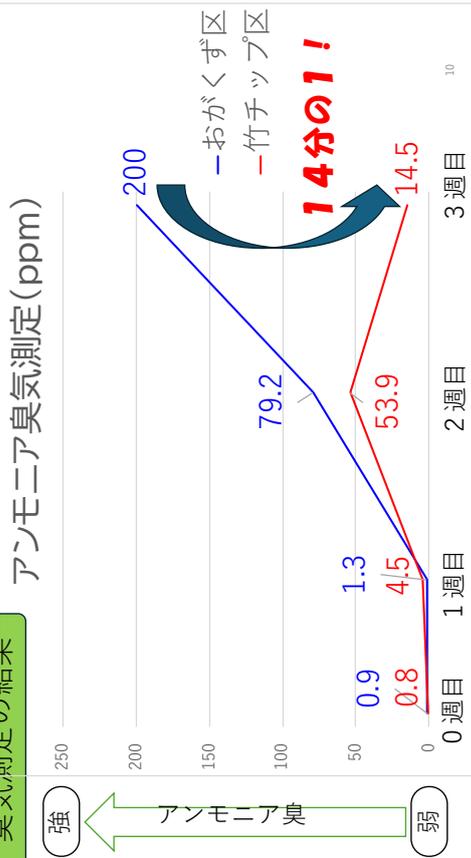
燃焼中

燃焼後

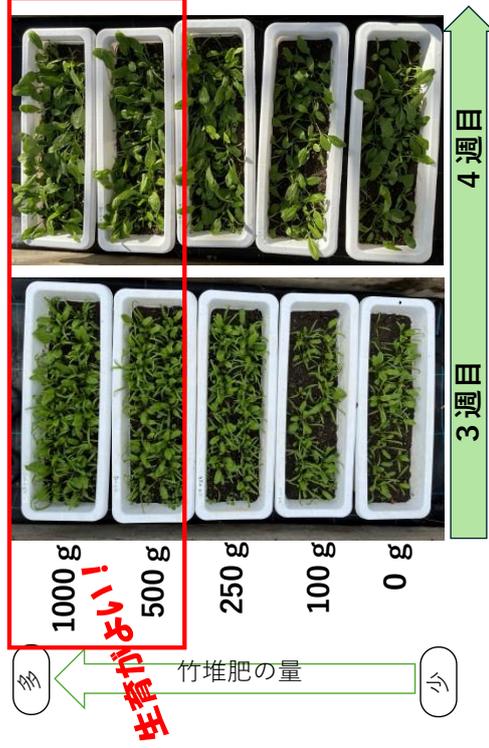
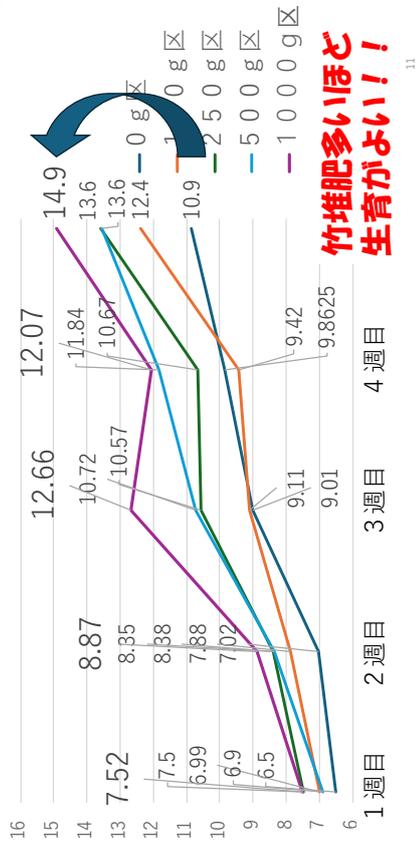
### 生物科学科 1.竹チップの家畜敷料化

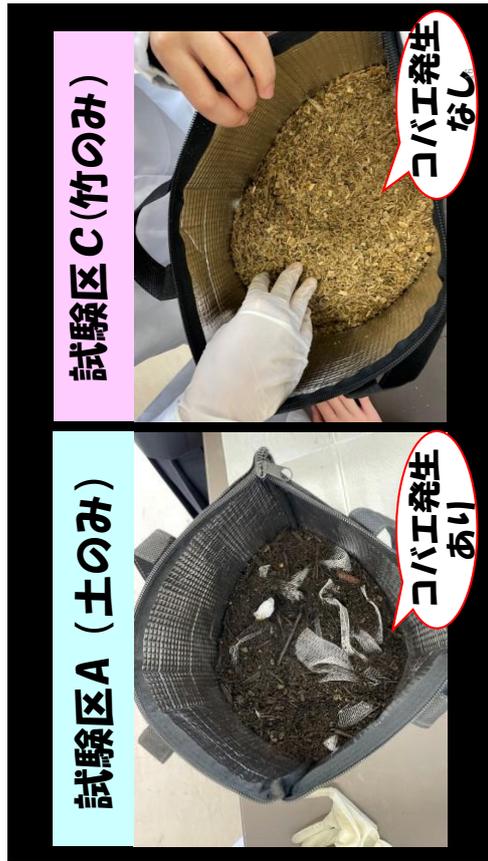
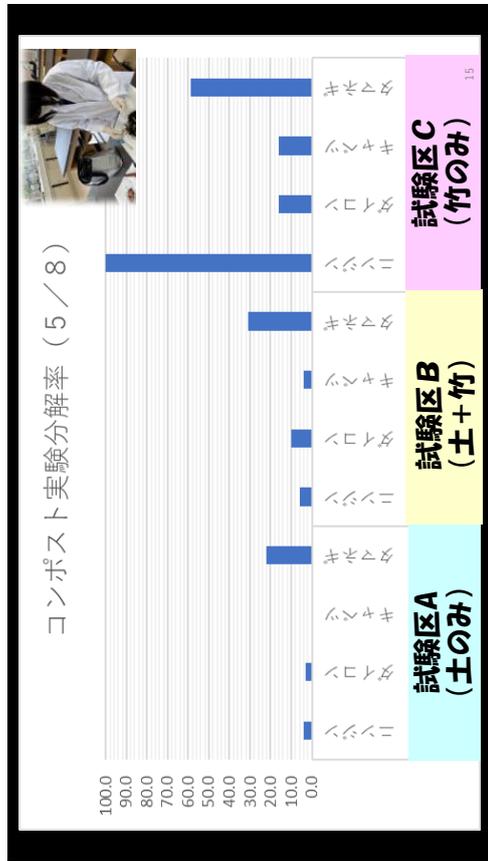


### 臭気測定の結果



### 生物科学科 2.竹堆肥の活用 ほうれん草栽培実験





## 2.消臭効果

消臭効果について

効果的 50%  
とても効果的 50%

■効果なし ■効果的 ■とても効果的

大きさにについて

要改善 0%  
適切 100%

■適切 ■要改善




**✓消臭効果有**

**✓コンパクトで使いやすい**

## 3.お菓子の開発 <ほうれん草クッキーの試作>

ほうれん草ペースト





見た目に改善が必要

乾燥 (60℃ / 10時間)



ほうれん草パウダー



ほうれん草ペースト






## <レシピ>

薄力粉 80g  
砂糖 30g  
バター 40g  
ほうれん草パウダー 10g

ほうれん草パウダー





アレルギー 対応菓子  
ほうれん草の 味が良い

<アンケート結果>

項目	スコア
味	5.0
色	4.4
見た目	4.7
食感	4.7

## イベント企画・商品開発



21



## 愛農祭でイベントの開催

目的：放置竹林を多くの人に知ってもらうため

イベント：①竹切体験イベント  
(300gちょうどに切るぴったんこチャレンジ)  
②ペン立てと消臭剤をプレゼント  
(森林環境科に協力してもらいました)

22

## 商品開発



- ・竹炭づくりは森林環境科に依頼
- ・竹炭を布（綿）に入れて消臭剤を作った。
- ・消臭効果を検証した
- ・1週間後と2週間後を比較すると、2週間後が明らかに違いが感じられた



24

## 販売価格

環境への配慮といった独自の付加価値を付けた

ワンコインで買いやすい

原価80円 販売単価100円

先生からももらった意見

100円でちょうどいい

竹炭の粉が出る、...

## まとめ

### イベント開発

放置竹林問題をもっと広めるためWebサイトの作成

### 商品開発

竹炭だけを売っていろいろな場所に見えるようにする

消臭剤以外にも竹炭に使い道がないだろうか

竹炭の粉を出ないようにする方法を見つけてほしい

25

## まとめ（合同）

< 合同でおこなったこと >

- ・ 4月 オリエンテーション
- ・ 5月 竹伐採、竹チップ製作
- ・ 7月 中間報告会
- ・ 11月 商から愛農祭出展
- ・ 随時 現地orオンラインで打合せ

**農・商「5学科」だからできる  
6次産業化への第一歩**



## VI 申請校の概要（令和6年度）

### 新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）

ふりがな	いまりじつぎょうこうとうがっこう				②所在都道府県	佐賀県
①学校名	伊万里実業高等学校				③設置形態	公立
					④課程別	全日制
					⑦教職員数	
⑤生徒数	1年	2年	3年	計	教員数：46 職員数：6	
生物科学科	40	39	40	119		
森林環境科	20	25	23	68		
フードビジネス科	40	40	40	120		
商業科	35	40	38	113		
情報処理科	37	33	39	109		
計	172	177	180	529		
⑥学級数	1年	2年	3年	計		
生物科学科	1	1	1	1		
森林環境科	1	1	1	1		
フードビジネス科	1	1	1	1		
商業科	1	1	1	1		
情報処理科	1	1	1	1		
計	5	5	5	5		
⑧構想名	文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラム					
⑨構想の概要	多様で幅広い視点を持ち、課題解決に向け能力を発揮できる人材を育成することを目的に、地域課題の解決に向けて異なる学科・学校がそれぞれの専門性を生かした文理融合型の学びを実践するカリキュラム開発を行う。また、デジタル技術を活用して、専門的知見や先端技術を有する人材や地域人材による質の高い教育や生徒間の協働的な学びを時間的・空間的な制限を超えて実践する。					
⑩その他学校の特徴	本校は、佐賀県立高等学校再編整備により、伊万里農林高等学校と伊万里商業高等学校が統合され、2019年4月に、農業及び商業を学ぶ実業系の高等学校として開校した。 本校では特色ある教育活動として「農業科及び商業科のコラボレーション（連携・共同作業）による教育活動」を掲げ、両科による商品の共同開発のほか、農業科による加工品のブランド化及び商業科による販売促進活動等、体験的な教育活動を展開している。					

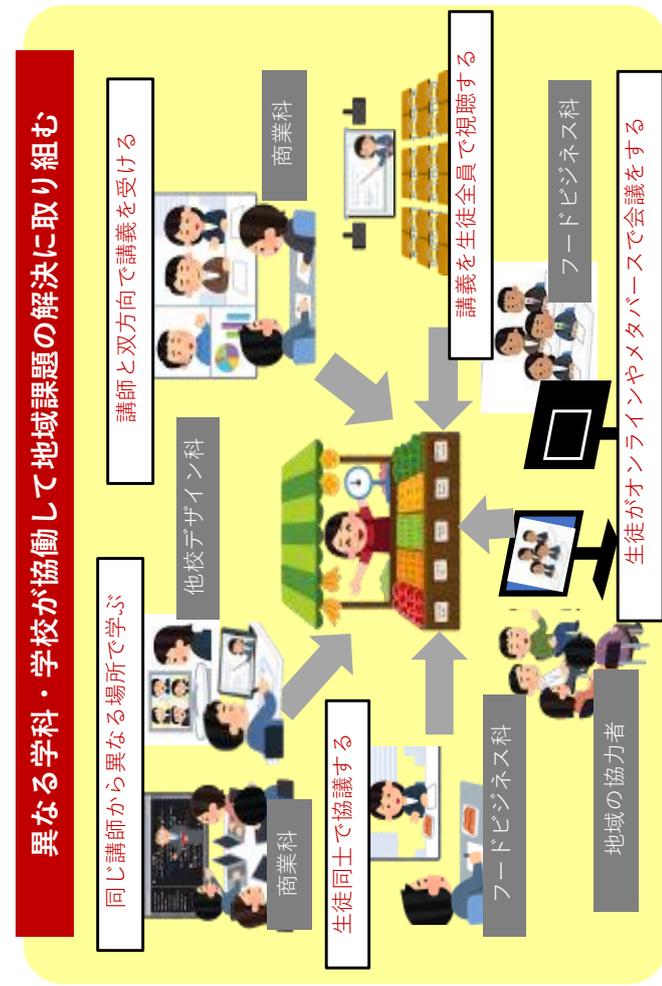
Ⅶ 文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラムの3年間のイメージ図

佐賀県教育委員会

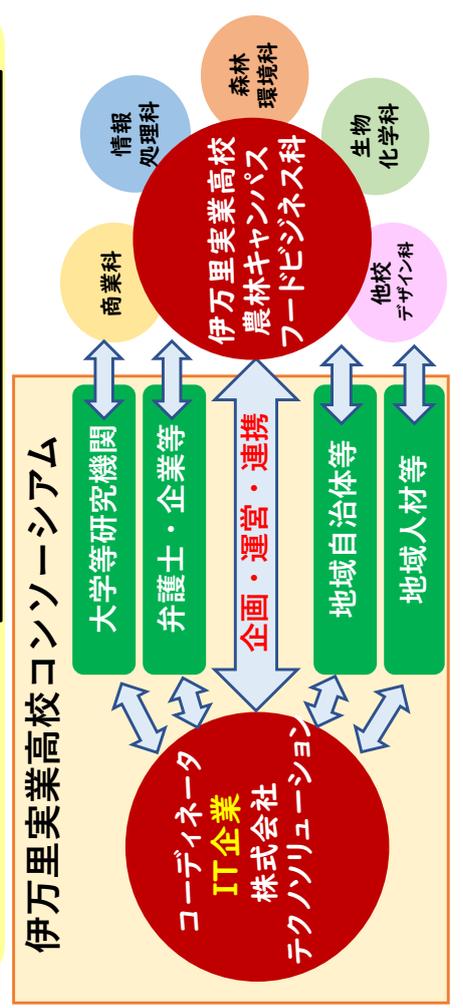
令和5年度

新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）

【佐賀県立伊万里実業高等学校】県立高校6次化実践プログラム



- 背景**
- 質の高い教育のためのオンライン活用の実践が必要
  - 文理融合型の学びを進める上で異なる学科・学校の専門性の協働が必要
- 目的**
- Society5.0に対応すべく、多様で幅広い視点を持ち、課題解決に向けて能力を発揮できる人材の育成
- 方法**
- 【デジタル技術を活用した新しい教育方法の導入】
- ①異なる学科・学校の専門性や特色を生かした文理融合型の学びの実践
  - ②専門的知見、先端技術を有する人材や地域を支える人材の積極的な活用



	令和5年度	令和6年度	令和7年度
カリキュラム開発	デジタル技術を活用した、関係機関や地域機関との連携による学科連携の学習効果を検証	地域課題を地域の学校が協働する文理融合型の実践を通してその有効性を検証	質の高いオンライン学習と文理融合型カリキュラムの有効性を総合的に検証
県内への展開	オンライン学習による総合的な探求の時間的効果的な実践について提案	専門高校に対する文理融合型学習の提案	学校同士がコラボレーションして行う総合的な探求の時間的横展開

【佐賀県立伊万里実業高等学校】文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラム

目的

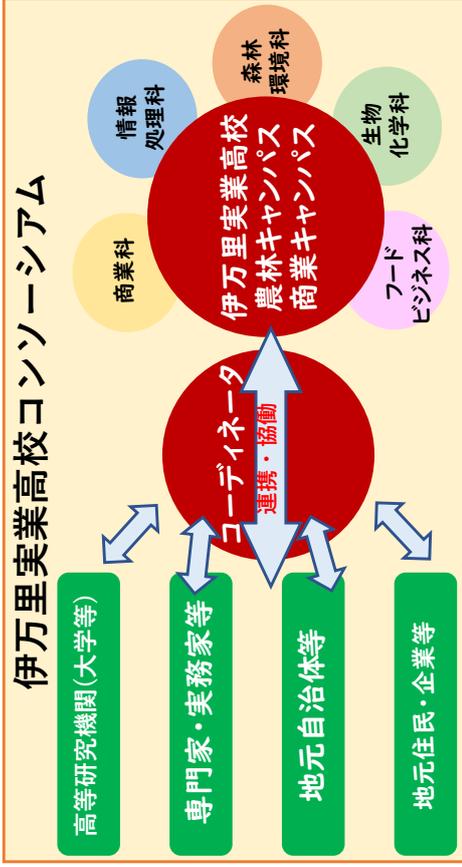
- 地域から求められる専門高校として、地域資源を活用した「6次産業化」を実践できる人材育成が必要
- 多様化する進路ニーズに適応した学びが必要

カリキュラム概要

6次産業化人材を育む文理融合型の学科・教科等横断による専門教育を推進する実業系高等学校の新しい教育モデルの確立と普及

新しい教育方法

学科の枠を超えた学び合いと外部講師の活用



令和6年度の目標

- 学科の枠を超えた学び合いを行うことで、多様な専門教科に興味・関心高めるとともに、高い専門性の融合による、多様な幅広い視野をもった課題を解決する人材を育成する。
- 外部講師を積極的に活用することで、学校の枠を超えた多様な幅広い視野をもった課題を解決する人材を育成する。

取り組み状況

【5学科共同課題研究（竹プロ）】  
全学科から総勢25名の生徒が協力がしながら、放置竹林問題の解決に向けた研究に取り組んでいる。意見交換の場では、Zoomの活用などDXの導入により、円滑なコミュニケーションと効率的な情報共有が実践できている。

【課題研究発表会】

両キャンパスの生徒が課題研究の成果を発表することによって、農業と商業を学んだ生徒同士の学び合いを目指す。

【ビジネスプランコース】

外部講師を活用した課題研究をとおして、地域社会と連携しながら6次化の視点を有する人材育成を目指すことを目的に授業を実施した。



（図1）  
農業科の生徒が商業科の生徒に測量を教える様子



（図2）  
商業科の生徒が農業科の生徒に簿記を教える様子

成果と課題

- 両キャンパスの生徒が共同研究を行うことで、各科の課題を共有し、相互理解が深まっている。また、実習や実験を通じた経験の蓄積が多様な視点の育成に寄与している。
- コーディネーターを活用した課題研究の取組「ビジネスプラン」における生徒の多様性の伸長などアントレプレナーシップの育成に成果が表れている。
- 今後は、今まで以上に実現可能な問題解決策となるように、講話や企業訪問などを実施することで生徒の思考を深める。



文部科学省指定事業

令和6年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」

文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラム（第2年次）

発行年月 令和7年3月

発行 佐賀県立伊万里実業高等学校

E-mail [imarijitsugyoukoku@education.saga.jp](mailto:imarijitsugyoukoku@education.saga.jp)

U R L <https://www.education.saga.jp/imarijitsugyoukoku>

**【農林キャンパス】**

〒 848-0035

伊万里市二里町大里乙 1414 番地

TEL 0955-23-4138(代)

FAX 0955-20-1002

**【商業キャンパス】**

〒 848-0028

伊万里市脇田町 1376 番地

TEL 0955-23-5191(代)

FAX 0955-20-1004